

都市再生整備計画 事後評価シート
須頃地区

令和2年3月

新潟県三条市

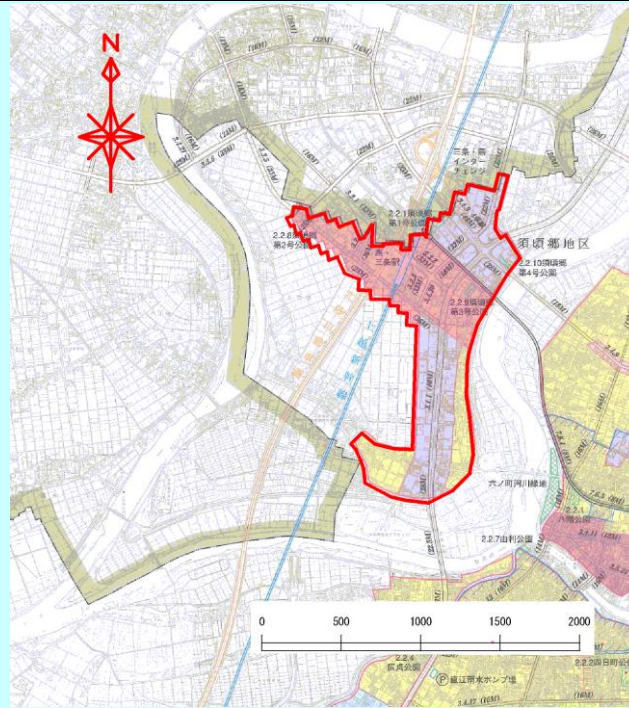
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	三条市		地区名	須頃地区			面積	114ha		
交付期間	平成27年度～平成29年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	400.0百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	公園、地域生活基盤施設									
			提案事業	まちづくり活動推進事業									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	公園整備	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	まちづくり活動推進事業	当地区周辺には、組合による土地区画整理事業が計画されており、その中で公園も整備される予定です。そのため、区画整理が完了した後、須頃地区全体の公園の在り方を燕市と協議し、須頃第1号公園の整備方針を決める必要があると考え、事業から取り下げました。				影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業										
			提案事業	まちづくり活動推進事業	当地区周辺には、組合による土地区画整理事業が計画されており、完了後は当該地区の地形が変わるため、浸水想定区域も変わると考えられます。そのため、本事業は関係機関の動きを見て取り組む必要があるため、事業から取り下げました。				影響なし				
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし								
	変更	平成27年度～平成29年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	指標1	JR燕三条駅の1日平均の乗車人員	人	2,210	H25	2,265	H29	—	2,285	○	あり なし		
	指標2	市民満足度調査	%	2,966	H26	3,016	H29	—	—	—	あり なし	須頃郷内水対策事業により、多様な市民交流の促進について、市民満足度の結果に反映できないため。	—
	指標3	計画区域における浸水予想区域面積	ha	34.5	H26	0	H29		2.5	△	あり なし ○	下流側の区域については、燕市の内水対策が未完了であるため、また、その他の区域においては地形等の都合上、整備を進めるには費用対効果と合わないため。	—
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標による効果発現状況)	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	その他の数値指標1	水害対策の推進	%	2,857	H26			—	3,032		あり なし	須頃地区を含め三条市内各地において内水対策を行い、降雨時における浸水面積が減少しているため。	—
	その他の数値指標2	なし											
	その他の数値指標3	なし											
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		降雨時における段階的な浸水区域の確認				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	引き続き、降雨状況に応じた浸水区域の確認を行う。	
	住民参加プロセス		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

須頃地区(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
三条市の発展を牽引する広域交流拠点の形成 ① 浸水被害の改善に向けた定住の場づくり	JR燕三条駅の1日平均の乗車人員 単位:人	2,210 H25	2,265 H29	2,285 H29
	市民満足度調査 単位:%	2,966 H26	3,016 H29	—
	計画区域における浸水予想区域面積 単位:ha	34.5 H26	0 H29	2.5 H29
	単位:	H	H	H
	単位:	H	H	H



まちの課題の変化

浸水被害の軽減を大きく図られたが、今後はアンダーパス等の一部範囲に浸水が残る対策が必要。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

- ・残る浸水区域の速やかな通行止め措置や排水作業の実施。
- ・浸水区域への流入を減らす排水路整備等。
- ・当計画の事業に与える影響が無いよう、民間による土地区画整理事業への助言を行うとともに、多様なまちづくりに発展するよう努力。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		①広域的な交通結節機能を活かした広域交流拠点づくり ②浸水被害の改善に向けた定住の場づくり	①浸水被害の改善に向けた定住の場づくり	平成29年度まで事業実施予定の須頃地区内水対策事業を当初の計画どおり完了することで、目標としていた浸水被害の改善に向けた定住の場づくりを達成できると考えます。また、平成30年度以降に予定していた事業については、当地区周辺で平成30年度から組合による土地区画整理事業が計画されているため、その完了を持って事業実施の方向性を再度検討する必要があると考えます。
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	須頃郷第1号公園整備	30		0		当地区周辺には、組合による土地 区画整理事業が計画されており、そ の中で公園も整備される予定です。 そのため、区画整理が完了した後、 須頃地区全体の公園の在り方を燕 市と協議し、須頃郷第1号公園の整 備方針を決める必要があるため、 事業から取り下げた。	影響なし		
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	須頃郷内水対策	400		400		なし	—	●	
高質空間形成 施設									
高次都市施設									
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	JR燕三条駅の1日平均の乗車人員	人			2,210	H25	2,265	H29	モニタリング	—		モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み ●	2,285	事後評価	○		
指標2	市民満足度調査	%			2,966	H26	3,016	H29	モニタリング	—		モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み	—	事後評価	—		
指標3	計画区域における浸水予想区域面積	ha			34.5	H26	0	H29	モニタリング	—		モニタリング	—		○
									事後評価	確定見込み ●	2.5	事後評価	△		
指標4									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	JR東日本のHPより、1日平均の乗車人員を確認した結果、目標値を上回り達成していたため。	
指標2	隔年で実施している市民満足度調査において、指標にあげている「市内外の多様な市民交流の促進」項目の調査が行われておらず、評価値が不明だったため。	
指標3	下流側の区域については、燕市の内水対策が未完了であり、その他の区域については地形の都合上、浸水するため。また、目標値に達するには、費用対効果が見合わないため。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	水害対策の推進	%	隔年で実施している市民満足度 調査において評価値を求める。		2.857	H26	モニタリング	-		3.032	須頃地区を含め三条市内各地 において内水対策を行い、降雨 時における浸水面積が減少し ているため。
							事後評価	確定 見込み	○		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
降雨時における段階的な浸水区域の確認	予定どおり実施した	○実施頻度：降雨時 ○実施時期：平成28年7月6日、平成29年7月3日・18日・24日 令和元年6月30日、10月12日 ○実施結果：パトロール等により浸水区域を確認。状況に応じ、通行止めの措置を行った。	引き続き降雨状況に応じた浸水区域の確認を行う。	
	予定はなかったが実施した			○
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
須頃郷地区排水対策検証会	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡技術科学大学教授 ・国土交通省北陸地方整備局河川部流域・水防調整官 ・三条地域振興局地域整備部計画調整課長・課長代理 ・須頃郷土地改良区理事長・副理事長 ・燕市都市整備部土木課長・参事 ・三条市建設部土木課長・主任 	平成22年11月30日～平成23年12月1日	三条市建設部土木課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		指標○		指標○		指標○	
指標名		計画区域における浸水予想区域面積							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	須頃郷内水対策	◎	地下調整池等の整備により、一定量の降雨に対して、浸水区域が減少するとともに、連続雨量に対しても効果を発揮した。 区域内のアンダーパス部分については、集水量の減少は見込めるものの、通行止めによる措置が必要となっている。						
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後の降雨時に対しても引き続き、地下調整池の機能が発揮されているかモニタリング等を行う。			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
本地区は近年急速に宅地化が進展しており、これに伴う雨水の流入量増加や近年多発する豪雨に対応するため、内水対策が急務となっている。	本地区における平成26年度の浸水面積は34.5haであったが、本事業による整備によって、浸水面積が2.5haと著しく減少したこと。	左記で記述した中で、地形等の関係から浸水面積が目標値である0haにならない状況にある。	浸水面積を0haにすることは、地形等の関係で問題解決に至るには困難であるとする。しかし、今後は浸水する区域における迅速な通行止めや迂回路の確保等について状況を見極め判断する事が課題である。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	今後予定している事業において、本地区の内水対策を踏まえ、検討していく。	—	上須頃土地区画整理事業 三条市中心市街地地区(第二期)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	浸水した区域における迅速な対応等について検討していく。	浸水した区域における、排水作業や通行止め等、迅速な対応。	—

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	JR燕三条駅の1日平均の乗車人員	人	2,210	H25	2,265	H29	確定	○	2,285	○	あり	→		
							見込み				なし			
指標2	市民満足度調査	%	2,966	H26	3,016	H29	確定		-	×	あり	→		
							見込み				なし			
指標3	計画区域における浸水予想区域面積	ha	35	H26	0	H29	確定	○	2.5	△	あり	→		
							見込み				なし			
指標4				H		H	確定				あり	→		
							見込み				なし			
指標5				H		H	確定				あり	→		
							見込み				なし			
その他の数値指標1	水害対策の推進	%	2,857	H26	/		確定	○	3,032	/		→		
その他の数値指標2				H	/		確定			/		→		
その他の数値指標3				H	/		確定			/		→		



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	JRへの乗車人数の変化による定量的な分析を行うことができた。	JR等無くなる恐れのない指標と市民満足度調査のようなアウトカム指標を併用することが重要
	うまくいかなかった点	総合評価による市民満足度調査項目が完了直近年度で無くなったことにより評価が不能となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		物理的に困難な(費用対効果の上がらない)箇所については、箇所毎に面積から細かく除外する。
	うまくいかなかった点	浸水区域の設定の際、アンダーパスのような、物理的に困難な区域についても面的に面積として入れたことにより、目標の達成に至らなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	目に見えた形で浸水の解消が進んだことにより、事業の情報として広く市民に知っていただけた。	工事前のシミュレーション等により浸水エリア効果は検証したものの工事進捗により目に見える形で市民からも評価していただいたと考え、他地区に関しても事業期間中に効果が見えるよう工夫していきたい。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業効果が随時確認できたことにより、当工事や他工事の確認を事業計画に反映できた。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
三条市中心市街地地区(第二期)、上須頃地区

・今後、事後評価を予定する地区
三条市中心市街地地区(第一期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページを通してインターネット上で評価結果を公表し、意見収集を行う。	令和2年2月25日～3月17日	令和2年2月25日～3月17日	担当課への郵送、FAX、Eメール、持参	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	建設課供覧	令和2年2月25日～3月17日	令和2年2月25日～3月17日		

住民の意見	・なし				
-------	-----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	新潟県三条地域振興局計画調整課長 佐々木 正壽	令和2年3月18日(水)	建設課(社会資本整備総合交付金主管課)	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後評価委員会要綱	独自に設置
その他の委員	三条商工会議所地域活性化まちづくり委員会委員長 長岡 信治 三条市自治会長協議会委員 宮澤 威久夫 須頃郷土地改良区事務長 堀川 隆秋				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	成果の評価について、適正であることが確認された。 ・委員の意見として、本地区周辺店舗の職員は浸水が少なくなり喜んでいと聞いた。との意見があった。
	実施過程の評価	実施過程の評価について、適正であることが確認された。 ・委員の意見として、整備後に大きな雨が無いところがあり一概に比較はできないが、道路冠水の時間については、事業前に比べ、大きく軽減されているのは目に見えて分かる。との意見があった。 ・委員の意見として、毎回の雨の降り方にも寄るが、調整池へ一時的に貯めることはもとより、降った雨の引くスピードも速くなっているのではないかと。との意見があった。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理について、適正であることが確認された。 ・委員の意見として、内水による浸水を全くゼロにするのは難しい考え方である。との意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表の妥当性について、適正であることが確認された。
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きについて、適正であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・特になし
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、妥当であることが確認された。
その他	・委員より、当地域における、中ノロ川への排水制限も大きく関係ことであり、引き続き、国、県へ市からも要望するよう意見があった。 ・委員より、三条市の別地域における同様に浸水する課題について、本計画のように取り組みを実施していただきたいとの意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--